

今月のイチオシ 鉄道模型

2026.02

どこが変わった?
北陸新幹線の延伸開業と

681系・683系・289系

KATO では、北陸特急で活躍する JR 西日本
のフラッグシップ、681 系・683 系を古くから製品
化、長年にわたりご好評をいただいております。

実車は、平成 27 年（2015）の北陸新幹線金沢開業、令和 6 年
(2024) の同敦賀開業という二度の大きなターニングポイントを経て、活躍の場が少しづつ変化してきました。

KATO がここ最近製品化発表を行っている、681 系・683 系の新たなバリエーション製品では、随所に新規金型を製作しております。本稿では、実車の変遷とともに、従来製品からとの違いをご紹介いたします。

681系 量産車… 平成 26 年（2014）頃までの編成

681系 サンダーバード 基本編成(6両)	~2002 6本 2009~ 3本	付属編成(3両)	~2002 7本 2009~ 4本
転3編成用成			
※平成 21 年（2009）までに各編成が「はくたか」へ転用 ※平成 16 年（2004）に、当時「サンダーバード」用だった 編成は 683 系との車内設備共通化工事を施工。 ●クハ 681 0番台⇒200番台化（アフター対応／客扉拡大） ●モハ 681 200番台⇒300番台化（車掌室撤去・販賣機設置） ●サハ 681 200番台⇒300番台化（チカフェティリ撤去・車掌室等設置） ※KATO では、これまで上記改造車は製品化していませんでした。			
681系 はくたか 基本編成(6両)	~2002 2本 2009~ 5本	付属編成(3両)	~2002 2本 2009~ 5本

681系 2000番台 はくたか 基本編成(6両) 2本

付属編成(3両) 2本

683系 … 平成 26 年（2014）頃までの編成

683系 0番台 サンダーバード 基本編成(6両)	6本	0番台付属(3両)	6本
683系 2000番台 しらさぎ 基本編成(5両)	12本	2000番台付属(3両)	9本
683系 8000番台 はくたか 基本編成(6両)	1本	8000番台付属(3両)	1本
683系 4000番台 サンダーバード(9両)	12本	2000番台付属(3両)	4本

各編成の
用途・塗装

サンダーバード

しらさぎ

はくたか

スノーラピッドエクスプレス

*北越急行所属

681系・683系 8000番台 … 「はくたか」から「しらさぎ」へ

- 平成 27 年（2015）3 月の北陸新幹線金沢開業による「はくたか」廃止と「サンダーバード」区間短縮に伴い、最終的に元北越急行所有車を含む「はくたか」用の全車と、「サンダーバード」用の 681 系基本編成が「しらさぎ」へと転用されました。
- 平成 31 年（2019）に、元「はくたか」編成も元「サンダーバード」編成に準じた改造が行われ、サハ 681 200 番台が 300 番台へ変更されています。
- 令和 6 年（2024）の北陸新幹線敦賀開業に伴い、大半は 683 系 0 番台に置き換えられましたが、基本編成の一部は現在も「しらさぎ」として活躍を続けています。



3本	681系 サンダーバード 基本編成(6両)	付属編成(3両)	4本
5本	681系 はくたか 基本編成(6両)	付属編成(3両)	5本
2本	681系 2000番台 はくたか 基本編成(6両)	付属編成(3両)	2本
1本	683系 8000番台 はくたか 基本編成(6両)	8000番台付属(3両)	1本

「しらさぎ」へ転用

10本	681系 0・2000番台 しらさぎ 基本編成(6両)	付属編成(3両)	7本
1本	683系 8000番台 しらさぎ 基本編成(6両)	8000番台付属(3両)	1本

●品番 10-1313（2017 年 4 月発売）は、元「はくたか」編成の、平成 31 年（2019）頃までの仕様を製品化しました。

●品番 10-2152（2026 年 5 月出荷予定）は、元「サンダーバード」編成を製品化いたします。

⇒窓配置が変化したサハ 681 300 番台を新規金型で再現

681系付属編成4編成はサンダーバード統合

681系 … 生涯「サンダーバード」を貫く編成



- 681 系のうち「サンダーバード」用付属編成は引き続き同列車で活躍。当初から同列車用であったため、平成 16 年（2004）までに 683 系との車内設備共通化工事が施工されています。
- 平成 30 年（2018）から令和元年（2019）にかけて 1 編成を除きリニューアル工事が行われ、前面と側窓が黒色の外観へと変更されました。
- 品番 10-2149（2026 年 3 月出荷予定）は、683 系 4000 番台とともに「サンダーバード」で活躍を続ける現在の形態を製品化します。
- ⇒客室が広くなったモハ 681 300、客扉が拡大されたクハ 681 200 を新規金型で再現

今月のイチオシ 鉄道模型

2026.02

どこが変わった?
北陸新幹線の延伸開業と 681系・683系・289系



683系 2000番台→289系…直流化改造

●「しらさぎ」への681系投入に伴い、従来同列車に使用されていた683系2000番台は編成を組換える上、交流機器の使用停止措置を実施し、289系へと改造されました。6両+3両編成は「くろしお」に、4両+3両編成は「こうのとり」や「きのさき」等に転用され、現在も活躍しています。

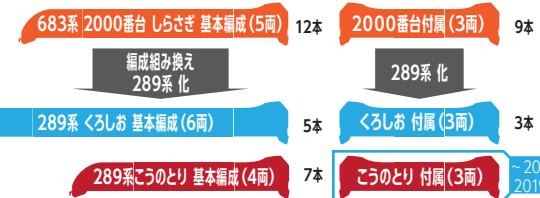


683系 0番台…「しらさぎ」に683系が復活

●令和6年（2024）の北陸新幹線敦賀開業に伴い、683系0番台のうち基本編成が「しらさぎ」へ転用されました。



683系 2000番台…“付属編成”から“主役”へ

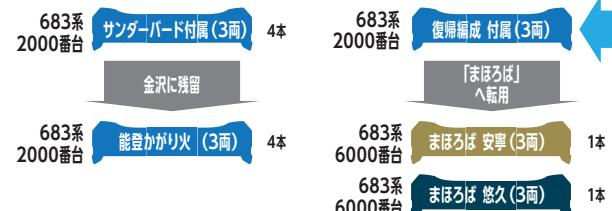


- 平成28年（2016）から平成30年（2018）にかけて、使用停止となっていた交流機器の撤去、グリーン車の半室化が実施されました。
- 289系「くろしお」品番10-1363／10-1364（2016年8月発売）は、転用直後の仕様（交流機器残置、グリーン車半室化前）を製品化しました。
- 289系「こうのとり・きのさき」品番10-2126／10-2127（2026年5月出荷予定）は、現在の仕様を製品化いたします。
⇒半室グリーン車となったクロハ288はもちろん、各車の床下機器・屋根上機器も新規金型で再現いたします。



- 約9年ぶりに683系が「しらさぎ」の主力となり、リニューアル塗装をまとった新たなバリエーションとして誕生しました。
- 帯色の変更など軽微な改装に留まった同車について、KATOでは運行開始間もない2024年12月に製品化を発表し、2025年5月より好評発売中です（品番10-2071）。

- 289系付属編成のうち2編成は、平成31年・令和元年（2019）に683系2000番台へ復帰しました。これらは令和7年（2025）に6000番台へ改修され、「まほろば」での新たな活躍を始めました。
- KATOでは2025年10月に「安寧」編成（品番10-2145）から早速製品化。3両単独で運行される列車であることから、3両編成の中間車（サハ683）用の動力ユニットを新規に開発しました。機器の少ない床下の印象を損なわないよう、新たな構造を採用しています。



- 683系2000番台のうち新製時から「サンダーバード」用であった編成は、北陸新幹線敦賀開業後も金沢に残留し金沢～七尾・和倉温泉を結ぶ「能登かがり火」専属の編成として活躍しています。
- 品番10-2144（2026年2月出荷予定）は、「まほろば」用と同様の動力ユニットを採用して製品化いたします。かつての「サンダーバード」増結用としてお楽しみいただくことも可能です。